

# 1 【様式】

## 平成31年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 四日市工業高等学校 全日制 )

### 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒</li> <li>○ スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸ばし、心豊かな人間性を備えた生徒</li> <li>○ 規範意識を持ち社会に貢献できる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目指す学校像の実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団</li> <li>○ 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員</li> </ul>

### 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 生徒の約8割が就職、約2割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍などを中心とした学校生活の充実を期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 子どもたちの進路実現と部活動等の集団生活をとおした人間的成長を求めている。</p> <p>&lt;企業等&gt; 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭・保護者&gt; 連携・協力のために、学校の取組等を今以上に情報発信してほしい。</p> <p>&lt;中学校・小学校等&gt; オープンスクール等により、学校生活の様子、部活動の様子、入学者選抜の情報等を知らせてほしい。</p> <p>&lt;企業・地域等&gt; 心身ともに健康な人材が輩出されることを期待している。 地域活性化につながる行事等へ参画してほしい。</p>		<p>&lt;家庭・保護者&gt; 本校教育方針を理解と協力、特に社会的役割と責任の自覚を促す指導への協力をしてほしい。</p> <p>&lt;中学校・小学校等&gt; 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有をしたい。</p> <p>&lt;企業等&gt; インターンシップ等の連携と協力、専門科目等における技術指導への支援をしてほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 卒業までの3年間を見通したキャリア教育の体制が確立している。</li> <li>○ 最先端の技術を教えるのも大切であるが、技術の基礎・基本の確実な定着を図ることも重要である。</li> <li>○ 人権教育については、充実していると考えられるが、教材研究や講師の選定など引き続き検討を深める必要がある。</li> <li>○ 地元小学校生へのものづくり体験教室は、工業教育の魅力を発信する絶好の機会として意義があり、継続・発展を期待する。</li> <li>○ 若者のコミュニケーション能力が低いと言われる社会環境において、四日市工業高校ではコミュニケーション力を高める取り組みを行っている。さらに充実・発展させてほしい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が、学習指導と生活指導の工夫と改善等に努力することが必要である。</li> <li>○ 生徒理解、支援体制を充実させ、生徒一人ひとりに応じた進路指導の充実が求められている。</li> <li>○ 企業が必要とする技術力が多様であり、本校工業教育の到達目標を定めにくい。</li> </ul>	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員数、職員室の数が多い学校であるが、分掌、工業各科、学年間の連携をスムーズに行ない、教職員間での情報共有が図れるよう取り組み、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。</li> <li>○ 放課後の指導等により、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。</li> <li>○ 各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。</li> </ul>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得やインターンシップの一層の充実を図るとともに職業人として必要な力を身に付けさせるための活動を体系的に実践する。</li> <li>○ 経済、産業、文化等、さまざまな分野でグローバル化が進展する中、価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する意欲や関心を高めるために、海外インターンシップや外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。</li> <li>○ 生徒が自己実現を図ることができるよう、全職員が連携した指導び支援体制を強化する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。地域の行事への参加、地域の小中学校へへの出前授業、学校説明会等を10回以上行う。</li> <li>○ 企業等との連携強化を図るため企業訪問を実施する。（100社以上）</li> <li>○ 人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。</li> <li>○ 生徒会活動や部活動などの自主的な活動を一層充実させ、心豊かな人間性と個性の伸長を図る。</li> <li>○ 部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定（1日/週）する。（目標100%）</li> <li>○ 精選と効率化により会議の時間を1時間以内とする。（目標100%）また、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために業務内容を精査し時間外労働の縮減に取り組むとともに定時退校日を設ける。（目標90%）</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実と資格 取得	<p>(1)生徒に「生きる力」をつける環境づくりのため、授業変更や特別時間割の工夫により、自習課題時間を前年度より減らし授業時間の確保に努める。</p> <p>(2)学習成果の指標として学科毎に特色のある資格試験や検定試験、競技会に取り組み、ジュニアマイスター（全工協）表彰80人以上を目指す。また以下の取組を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>（物質工学科） 1年生での危険物取扱者乙4類全員合格。 3年間で危険物取扱者全類合格者80%以上</p> <p>（機械科） 技能検定（旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ）の合格率100%、1年生での危険物取扱者乙4類全員合格。</p> <p>（電子機械科） 以下の各種資格取得において合格率を前年より上げる。 技能検定（マシニングセンタ、シーケンサ）、ITパスポート、製図検定、ガス溶接技能講習</p> <p>（電子工学科） 資格・検定取得者数のべ120人以上</p> <p>（電気科）</p>	<p>自習課題時間を前年度521時間から103時間減の418時間と授業時間確保ができた。</p> <p>【各工業学科】 ジュニアマイスター（全工協）表彰37人。</p> <p>（物質工学科）1年生の危険物取扱者試験乙種第4類取得率は72%であった。</p> <p>（機械科）技能検定の合格率100%であった。危険物取扱者試験乙種第4類81%が取得（1年生）</p> <p>（電子工学科） 資格取得・検定合格者数は178名となった。</p> <p>（電気科） 4級品質管理検定合格率100% 第二種電気工事士合格率85%で達成</p> <p>（建築科）</p>	

	<p>4級品質管理検定合格率60%以上 2年時の第二種電気工事士合格率70%以上 (建築科) 2級建築施工管理技士(学科試験)の合格率で全国平均以上 3・4級建設業経理事務士、技能検定3級(建築大工)の合格率100% 各種全国高等学校建築設計競技での上位入賞 (自動車科) 自動車整備士試験の合格率100%</p>	<p>・2級建築施工管理技士 建築CAD検定 技能検定3級 (合否未発表) ・3・4級建設業経理事務士は全員合格100%達成。 ・全国高校建築設計競技について全ての作品が入賞かつ3作品において最優秀賞を受賞した (自動車科) 3級自動車整備士の合格率は97.4%。</p>
キャリア教育の充実	<p>(1)実習等での1分間スピーチなど、言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力や心豊かな人間性と個々の伸長を図る。【工業科】 (2)インターンシップ及びその成果発表会を行い、全ての生徒が働く意義と仕事をすることの重要性を認識できるよう取り組む。(指標:2年次においてインターンシップ参加生徒の率75%以上) (3)進路実現のために以下の取組を行う ・進路講話、卒業生との懇談会の実施 ・学年通信の発行(指標:3学年で10回以上) ・応募前企業見学の実施 (4)生涯にわたって学ぶ資質を養うために図書館の利用促進を図る。 ・年間貸出冊数6000冊 ・図書館便りを月1回発行</p>	<p>(1)自動車科実習時において1分間スピーチを全学年で実施して、コミュニケーション能力の向上を図った。 (2)インターンシップ2年生255人が107社で実施(事後アンケートで93%の生徒が役に立ったと回答) (3)進路講話、卒業生との懇談会が実施できた。(進捗率100%) ・応募前見学の実施等により学校斡旋による生徒の就職内定率は100%となった。 ・1学年では学年通信の発行を5回行った。 (4) ・生徒貸出冊数4826冊 ・図書館便り11回発行(2/29現在)</p>
人権教育	<p>人権感覚あふれる学校づくりを目指して以下の取組を行う。 ・人権だよりの発行、(年3回以上) ・人権LHRを1学期と2学期に全学年で実施 ・人権問題についてグローバルな視点を持ち、自ら考え、判断し、行動できるような講演会の実施 ・1年生を対象としたSNSに関する講演会の実施 ・修学旅行先の沖縄について取り上げた平和学習の実施 ・いじめに関するアンケートを実施するとともにその結果を職員で共有し、いじめの早期発見に取り組む。また、いじめをゆるさない学校づくりを目指す。</p>	<p>・人権だよりを3回発行した。 ・人権LHR、人権講演会を予定通り実施できた。 ・SNSに関する講演会を実施できた(1年生)。 ・修学旅行先の沖縄について取り上げた平和学習を実施した ・いじめに関するアンケートを実施し、その個別の結果を職員で共有するなど、いじめの防止に努めることができた。</p>
生徒指導	<p>(1)基本的な生活習慣の確立について取り組む。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育む。 ・規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る事ができるよう取り組む。(指標:遅刻件数年間250件以下) ・来客者や教員に対するあいさつ・礼儀作法を身につけ、社会で生きていくために必要な力を養う。 (2)交通事故防止に取り組む。 ・自転車通学の安全とマナー向上、交通ルールの順守を</p>	<p>(1)遅刻数は対前年度22件減の160件に減少した。しかし、寝坊の理由での遅刻が増加している。 ・来客者等からあいさつができていたとの言葉を多数いただいた。 交通事故件数は昨年度の34件から21件に減少した。 (12月末までの結果)</p>

	図るため、登校指導・講話の実施	
保健管理	<p>生徒自身が健康への関心を高め、健康について考える機会を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力と歯についての指導を重点課題ととらえ保健指導を行う。</li> <li>・生徒保健委員会による保健だよりを年5回以上発行</li> <li>・保健便り「すこやか四工」を定期的に発行</li> <li>・外部講師を招聘して「性に関する講話」「メンタルヘルスに関する講話」を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視力を重点保健指導課題とし、3年生には適正な矯正視力とする指導を強化。歯科では文化祭で展示企画、体験企画を計画・実施して虫歯予防に取り組んだ。</li> <li>・生徒保健委員会便り14枚、学校保健委員会だより1枚の発行に加え「すこやか四工」を定期的に加えて情報を発信した。</li> <li>・性に関する指導（全学年）、メンタルヘルスに関する講話（1年生）をそれぞれ1回ずつ行った。</li> </ul>

### 改善課題

#### 学習指導の充実と資格取得

- (1) 授業変更や特別時間割の工夫により、自習課題時間を減らすことはできたが、自習時間がまだまだ多い。出張等を早期に把握し、計画的に授業時間を変更したり特別時間割の編成について更なる改善が必要である。
- (2) 学習成果の指標として学科毎に特色のある資格試験等に取り組んでいる。ジュニアマイスターの表彰者は目的を達成できなかったが、新たに2級技能士の旋盤や2級・3級技能士の機械製図CADへ取り組む生徒も出てきたことは成果としてとらえられる。

自動車整備士試験は、卒業後の令和2年3月22日（日）に実施。前年度の合格率はガソリン・エンジン97.4%、ジーゼルエンジン80.0%、シャシ100%とほぼ目標を達成できた。今年度も、整備士試験対策補習の一層充実に努める。

また、専門教科・実習を通し確実に技術・技能・知識の習得の向上を図るため、1年次から3級自動車整備士資格所得の必要性・重要性をより一層理解させる必要がある。

自動車科のインターシップでは、全ての生徒が自動車整備士に関わる仕事を体験できている。次年度は生徒の進路選択の幅を広げるためにディーラーだけでなく工場等へのインターシップを実施するなど更なる拡充を図ります。

#### キャリア教育の充実

- (1) 実習時における1分間スピーチの他にクラブ活動等においても自己の目標を発表させるなど言語活動の充実を図りながらコミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。よい取り組み事例を学校全体で共有し、さらに広める必要がある。
- (2) 工業科の職員が中心となってインターンシップの指導等を行っている。学校全体で取り組む必要がある。また、今年度は工業高校生に国際的な視野を育むため1年生の希望者に対して海外インターンシップを実施した。今後、継続的に行い成果を検証していく必要がある。
- (3) 今年は昨年を上回る1200社2025名の求人があり、260名の就職（公務員含む）全員の内定が決まった。しかし、1次試験に不合格となる生徒もおり、その要因の主な理由としてグループディスカッションや集団討論における自己表現や主張の不足があげられる。さらに個人面接では志望理由がはっきり伝えられなかったことなどが原因にある。次年度は個人面接の強化に加え、外部講師の活用も検討しながら、集団討論、グループディスカッションの指導を新たに取り入れることを検討する必要がある。

なお、今年度は1年生向けに行っていたキャリア教育を見直し、講演を聞くという受け身のガイダンスからグループワークを取り入れた主体的に考えるガイダンスに改善した。

## 人権教育

「携帯電話、スマートフォンの扱い方」について

計画的にSNSに関する講演会の実施を行うことができたしかし、学校内での不必要な使用、登下校時の使用、SNSでのトラブルなど、指導すべき状況は増加している。さらに具体的に伝え、重点的に取り組む必要がある。

また、これまで生徒がLGBTの人たちの抱える問題について知識として学ぶ取り組みが多かったが、今後は、その人たちの視点に立って考えることができる資質を育むための取組を一層行う必要がある。

## 生徒指導

・「遅刻」について

遅刻理由の「寝坊」が増加している。時間を守るだけでなく、時間の扱い方、基本的な生活習慣の改善については学校だけでなく、家庭との一層の連携・協力が必要である。

・「あいさつ」について

来校者から挨拶ができているとの言葉をもらうことがあるが、日常生活や来客に対してさらにできるようになると思われる。そのためには、教員からも積極的に元気よく声かけを行い、一層充実した取り組みが必要である。

・「通学マナー」について

自転車事故の件数は減少しているが、通学マナーについては地域の方々から苦情をいただくことがある。今後も事故防止と共に交通ルール、マナーについて継続指導していく必要がある。

## 保健管理

・各学年の保健LHRの計画を今後も継続して行っていくために、引き続き保健部員の誰もが計画・準備できるようなシステムを構築する必要がある。

・学校保健委員会は、全体会以外に関係者のみで行うグループワーキングや地域学校保健委員会を開催する等して、回数や開催形態を見直す必要がある。

・性に関する指導では、今年度初めて3年連続して同じ講師に講演を依頼した。継続する事で伝えられる事、他の講師にする事で伝えられる事の両面を検討し、次年度の講師選定を行う必要がある。

・スクールカウンセラーの活用については、今後も定時制と協議を行いながら検討する必要がある。また、発達障がい支援員や外部機関との連携が継続的に活用できるよう、年間で計画する必要がある。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	(1) 防災・減災の観点から、防災意識を高めるとともに、防災教育・訓練の充実を図る。 ・巨大地震が発生し津波避難を想定した防災訓練の実施 (2) 地域・保護者との連携強化 ・役員会を5回以上実施 ・各研修会への参加及び、PTA会報(年1回発行)等による還元 ・学校関係者評価の開催 (3) 人権教育を計画的、継続的に推進する。	(1) 南海トラフ地震の被害想定、集合点呼を中心を実施した。 (2) PTA役員会は第5回を1月に開催。6回目も予定していたが感染症防止の観点から中止。PTA会報を3月に発行した。 (3) 人権教育推進委員会を11回実施した。次年度は制服の見直	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育推進委員会の開催（年間 11 回）</li> <li>(4) 特別支援教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会を年 5 回以上開催</li> </ul> </li> <li>(5) 学校医との連携・情報交換を密にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期毎の「学校保健委員会」の開催</li> </ul> </li> <li>(6) 「働きやすい職場づくり」を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動において、生徒・部活動顧問ともに休養日を設定する。（1 日/週）</li> <li>・ 定時退校日を設置し退校を促す。（1 日/月）</li> <li>・ 1 か月の平均時間外労働時間を 20 時間以内、年間休暇取得日数の前年比 1 日増を目指す。</li> <li>・ 時間外労働時間が月 45 時間を超える職員への支援を強化し、延べ数で年 30 人以下となるよう取り組む。</li> <li>・ 会議の進め方を見直し、全ての会議時間を 1 時間以内とする。</li> </ul> </li> </ul>	<p>し等について検討を行う。</p> <p>(4) 特別支援教育委員会を 5 回行い、学校での配慮や支援の方法を検討、実施した。</p> <p>(5) 3 回実施。第 2 回学校保健委員会では生徒保健委員会の代表が参加し、本校の健康課題について報告等を行った。</p> <p>(6) 休暇取得日数 17 日 5 時間（12 月まで） 時間外労働時間 80 時間 超は 41 人（11 月） （※ 4 月に更新予定）</p>	
--	---	--	--

### 改善課題

定時退校日を月に 1 日とすることは当日に気づく教員もおり、部活等で変更がしにくい状況にある。早めの周知が必要です。

時間外勤務が 45 時間を超える教員についてはほぼ同じ職員が超えており（約 9 割）、勤務の在り方や時間の使い方の工夫など引き続き面談等により指導していく必要があります。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>四日市工業の生徒は校外でも挨拶をしてくれ、さわやかに感じるが、若者のコミュニケーション能力が低くなりつつあるような社会的変化を感じる。コミュニケーション能力を更に育む教育が重要である。</p> <p>専攻科の生徒募集は成果が表れている。企業等と連携した指導を更に拡充していけばよい。</p> <p>より多くの企業に対して専攻科の取組を周知していくことで、更なる求人数の増加や待遇の改善が見込めるのではないかと。</p>
----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>生徒が学習活動と部活動との両立を図り、計画的・継続的に学習を行うことができるように教職員間での情報の共有や連携した取り組みをいっそう進めます。</p> <p>基礎学力向上のために授業改善を継続して行うとともに、指導と評価の一体化を踏まえたカリキュラムマネジメントの推進を一層行う必要があります。</p> <p>工場見学やインターンシップにおいてそのねらいや目的を明確に生徒に提示するとともに、事前指導や事後指導などの工夫により、学習意欲向上のための動機付けを行います。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>デスクネット等の媒体を活用することで、会議の時間を減らすようにします。</p> <p>教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、報告書類の内容の見直し等による事務処理の軽減などの業務内容を見直すとともに、長時間労働が及ぼす健康障害等を職員に周知し、「働きやすい職場づくり」を目指します。そのために引き続き以下の取り組みを継続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動休養日の見える化に取り組めます。</li> <li>・ 職員の休暇取得の対前年比増を目指します。</li> <li>・ 月に一日の定時退校日は職員どおしで帰宅を促すよう取り組めます。</li> </ul>